２．産業看護部会

〈九州地方会80周年史企画
産業看護部会座談会〉
九州地方会産業看護部会の基盤をつくった
先輩保健師方が語る産業看護部会の歴史

・日　時：平成27（2015）年
11月21日（土）14：00～16：30
・場　所：アサヒビール博多工場
ＶＩＰ会議室
・参加者：今村幸子、藤原直子、森中恵子
（以上、元九州電力）
福光ミチ子
（ＢＯＯＣＳ情報センター福岡）
進行：住徳松子
（アサヒビール㈱博多工場）
・聴講者：柴戸美奈、中尾由美、日笠理恵、門田美紀子、山下珠美、白石明子、虫明優子（以上、九州地方会産業看護部会）

住徳　座談会に入るにあたり、平成11年に行った、馬場快彦先生（当時福岡産業保健センター所長）、大関しずえ先生（元三井三池保健婦）、池田泰子先生（元九州電力保健婦）、本川真弓先生（元産業医科大学教授）の座談会の記録を見直しましたが、やはり「産業看護は九州から始まった」というのが、共通の認識ではないかと思います。九州の産業看護の黎明期は、三池炭鉱の伊藤文子氏が初期にかかわっておられ、しばらくは三井山野・三池など、炭坑の保健婦の方々が活動を支えてこられた。その後、30年頃から記録は残っていますが、研究会として立ち上げはどのような経緯だったのでしょうか。

福光　昭和22年に労働局と一緒に事業所保健婦研究会をやったという記録があって、名簿も残っていました。

住徳　九州電力で保管されていた記録を見ますと、昭和22年に伊藤文子氏、大関氏が、事業所保健婦研究会の綱領を定めたとありました。その後、いろいろと経緯があり昭和30年に正式に事業所保健婦研究会が立ち上がったようです。

福光　伊藤さんに聞いた話ですが、その時、看護協会から事業所（保健婦）は分離するのか？と言われそうで、あくまでも看護協会の中の研究会だと答えたと聞きました。

○事業所保健婦研究会（看護協会）での活動について

今村　その当時は、「産業看護」という言葉自体がなくて、産業看護は看護協会でもよ

〈平成11年５月　産業看護のあゆみ座談会開催時撮影〉
上段左から：不明、岩田、藤原、今村、内藤、住徳、山下、森中
下段左から：池田泰子先生、大関静江先生、馬場快彦先生、本川真弓先生、福光
敬称略（座談会参加者を除く）

く理解されていなかったように思います。看護協会に「事業所保健婦研究会」ができたのが昭和33年。私が九州電力にはいったのが昭和34年、その前の逓信病院の頃から看護協会に入っていたが、その当時、看護協会保健婦会はなく、昭和21年日本産婆看護婦保健婦協会が開催され、保健婦助産婦看護婦の組織は一体でした。

日本産婆看護婦保健婦協会に入っていた事業所保健婦の数は137名（九州）、その中で福岡県の方が多いのでおのずと中心となりました。大関しずえさん（三井三池、後中村学園大学）が最初に世話人をされ、その後伊藤文子さん（三井山野）が後を継がれた。当時、労働省福岡労働局安全衛生課長であった馬場先生のお陰で、合同庁舎の会議室を使わせていただいていた。職員である専門官の方々にもかわいがっていただいた。

それまで、行政等の保健婦は厚生省との関わりはあったが、労働省との関わりはなかったが、産業保健は労働省との関わりの方が重要なので、三井との縁を通して、労働省との関わりを深めることができました。それが昭和33～34年くらいのことです。

私は、昭和35年くらいから事業所保健婦研究会にかかわるようになりましたが、研究会をやりたいというより、事業所保健婦がどう活動していけばいいか、活動が自分のものになるにはどういう研究会にすればいいか、時代が大きく変わっているときだったので、事業所で働く保健婦も看護婦も、准看護婦も一緒にされ、保健婦の特殊性って何だろう、保健婦の資格を活かすというのはどういうことだろうかということから出発したわけです。だから、看護協会の中で事業所保健婦をＰＲすることが初動の活動目標でした。事業所の保健婦を掘り起こそうと、年に２回各事業所の活動紹介と課題解消のための意見交換をしていきました。愚痴を言わずに前向きな会になるようにルールを作って活動をしたことを覚えています。

住徳　時代をさかのぼって資料を見ますと、事業所保健婦活動を牽引したのは、炭坑が盛況だったときには炭坑保健婦で、炭坑が下火になったために、九州電力にその役割が移っていったように思います。

今村　炭坑での保健婦の活動は家族ぐるみの活動で、社宅の衛生管理、産児制限を主体にしていると話されていたと記憶しています。

私が入社した昭和34年頃は、九州電力でもまだ結核管理が主体で、昭和36年に高血圧・循環器管理が始まり、昭和44年には精神衛生が入ってきて、そこから３本立ての活動となっていきました。

藤原　事業所保健婦研究会の頃は、九州電力が事務局を担っておらず、九電が事務局になったのは研究会の活動の場が日本産業衛生学会になってからだと思います。

住徳　事業所保健婦研究会はとても参加者が多いという記録が残っています。年に２回の研究会はどのように運営されていたのですか。

今村　研究会の委員が牽引していました。九州電力から役員を１名、必ず出していたし、研究会での発表も行っていました。そもそも九州電力では雇用された看護職がとても多くて、昭和34年の九州電力の看護職が126名、昭和40年は98名の看護職がいましたから。昭和53年に私が委員となってから九州電力が事務局を務めるようになりました。

福光　馬場先生（労働局）、石西先伸生（九大衛生学）が保健婦と一緒に活動してくださり、歴代の委員は池田泰子さん、脇山さん、藤井さん、帆足さんたちがいらした。最初のリードは大関先生だったが、最初の委員長になったのは伊藤文子さんだった。

住徳　資料にある昭和30年の第１回事業所保健婦研究会の開催通知では、主催が伊藤文子さんで、労働基準局と八幡製鉄の真島智茂先生が共催という記録が残っています。労働基準局の課長の名前もあり、バックアップされていたことがわかります。

福光　昭和41年あたりは、地方会の中で産業医連絡協議会と事業所保健婦研究会が同日に研究会を開催しており、産業医と看護職

がとても良い関係を構築できていた。

○事業所保健婦研究会から産業看護研究会、看護部会設立への動き

住徳　ところで、あらためて確認したいのですが、産業看護研究会と事業所保健婦研究会などの関係はどのように理解したらいいのでしょうか。

福光　その二つは、昭和52年久留米（福岡）での日本産業衛生学会時に合流したんですよ。

　昭和52年久留米の学会開催された折、東京で活躍されていた深沢くにへさん達の努力で学会の中で産業看護の自由集会が初めて組み込まれ開催されました。産業看護研究会の発足が提起され、昭和53年松本（長野）の学会の折、名称を「産業看護研究会」として承認され九州から鈴木美代さん、藤原さんが初代代表者になったのです。

住徳　事業所保健婦研究会は看護協会の中にあったが、昭和53年で看護協会から独立したということですか。

福光　そうではなく、看護協会（職能団体）とはあくまでも並列の関係。

森中　産業保健研究会、事業所保健婦研究会（看護協会）、産業看護研究会（学会）はまだ並列して存在していた。

今村　深沢くにへさんが、関東（東京）の会をまとめていらした。大阪でも事業所だけでなく、健保組合所属の保健婦、全衛連の保健婦が集まって活動されており、産業看護部会発足にむけた流れはあった。

　学会の中で産業医部会を発足する動きもあり、事業所もしくは国保の活動の基盤があったため、法的に保健婦の身分を確保するために厚生省へ上申するという動きが出てきた。

住徳　記録を見ますと、中央では昭和53年に安衛法に保健婦の役割を記載するよう陳情しているようです。昭和39年、40年に労働省に陳情、昭和47年にも要望をだしています。

今村　昭和47年に要望を出し、労働省から内簡をもらっていた。法的な決定ではないが文書としては残るというお手紙をいただいたのです。

住徳　資料を確認しますと、昭和53年に産業看護研究会が学会の中に発足していますが、事業所、健保組合、労働衛生機関で別々に勉強していた所、その中にそれぞれ学会員がいたので、そこで学会の中で産業看護の研究会を作ろうという動きにまとまり、産業看護部会ができたということでよろしいでしょうか。

今村　そういうことです。ちょうど、産業医科大学が設立する少し前だった。専攻科の立ち上げにもかかわった記憶があります。

藤原　事業所保健婦研究会には健保組合、事業所、企業外労働衛生機関の方が入っており、仕事としてはそれぞれの区分があったが、研究会としては一緒に活動していたということです。

今村　看護協会の区分だったのですよ。市町村（総務省）、保健所（厚生省）、その他事業所（労働省）と、要するに主管省庁の関係ということで区分が分かれていた。企業外労働衛生機関は、看護協会の区分では所属するところがなかったので、事業所保健婦研究会の中に入ってきたということです。

住徳　事業所保健婦研究会は看護協会の中の組織だったというのが意外な印象です。昭和53年に産業看護研究会が発足したわけですが、事業所保健婦研究会はいつまで開催されていたのですか。

福光　看護協会には産業看護研究会から２名委員を出していたので、しばらくは並列で行っていたはずです。

住徳　昭和56年が最後の事業所保健婦研究会だったようです。現在も保健師職能委員の中に産業分野から１名出しています。

今村　看護協会で保助看が１本になったときに、保健婦職能理事となった記憶がある。そのころ事業所保健婦の看護協会への加入が増えた。

住徳　私たち世代（昭和60年以降の保健師）には、事業所保健婦研究会の記憶はないですね。

福光　事業所保健婦研究会は昭和56年までのようですが、その名残でしばらくは産業看

護研究会を福岡県看護協会の大会議室で開催していた。今村さんが産業医の先生方との連携をとっていたので、産業医と保健師が協働することが大きな力となったのではないかと思います。

○世話人会と九州電力の支援

森中　高度経済成長で企業にも力があった。

今村　九州電力が牽引していたのは、支店に健康管理医と多くの保健婦がいたからでしょう。定期的に集まりがあり、健康管理医と保健婦が協力していた。

　それにより、九州では医師と保健婦の関係がよく、それが牽引できた理由ではないかと思う。

福光　九州に産業医科大学ができたことも大きいと思う。

　産医大の土屋学長や大久保教授（当時）を初め多くの先生方とも関係を構築し協力してもらった。

森中　何かあったら産業医科大学へ相談や勉強に行っていた。

今村　産医大でも研修会を開催させてもらった。

　九州電力自体は協力的とは言えなかったかもしれないが、社内外の医師と保健婦のコミュニケーションが取れていたことが大きく、企業自体も保健婦の活動に口出しできず、保健婦を採用の際も意見を聞いてくれていた。

福光　大関先生、池田さん、今村さん、藤原さん、森中さんと、九州電力の保健婦はお互いをサポートできる方が揃っていた。

住徳　昭和53年の代表世話人が鈴木さんで、藤原さん副会長という記録がありますが、鈴木美代さんの功績はいかがですか。

今村　鈴木さんは保健婦も有害物質管理ができないといけないという考えだった。しかし、その当時の多くの企業の保健婦はそこまでは至らなかったと思う。鈴木さんと馬場先生との力で、保健婦のスキルや役割に一石を投じてくれ、九州の産業保健の活動の推進力になった。

福光　荒木千寿子さん（当時福岡県警保健婦）、内藤正子さん（元ＮＴＴ保健婦）は、地道に仕事の現場からの思いを伝えてくれていた。

　役員を務めてくれたそれぞれの方が、大事な役割をはたしてくれた。

森中　世話人会の月１回の例会では、荒木さんが調整役でした。

H11.7.23　桃野美代子姉日本看護協会長賞受賞のお祝い会

〈平成11年７月　桃野美代子看護協会長賞受賞記念〉

上段左から：森中、今村、内藤、木下、上別府（後藤）
下段左から：藤原、池田、桃野美代子先生、本川、福光

福光　当時は何かと議論していた。

今村　産業保健はいつも新しい課題が出てきて、何を今やればいいのか、いつも悩みながらその課題を解決するために一生懸命だった。みんな燃えていた。

衛生管理、疾病管理から健康づくりに、産業保健活動の流れが大きく変わったとき、産業医さえ戸惑っていた。

福光　保健婦はすぐに新しい知見をくれる人を探してきた。野村先生（熊本大学）が赴任されるとすぐに逢いに行き、保健婦の活動について理解と協力を得ることができた。

今村　高田和美先生や児玉先生など、キーパーソンとなる先生との関係を築いてきた。

住徳　今村さんがおっしゃったように、九州電力で仕事を積み上げていくときに大学に相談に行き勉強され、それが産業看護研究会のテーマになっていった。

事業所保健婦研究会の初期のテーマは、母子衛生管理で、炭坑時代の衛生管理の問題がそのまま研究会のテーマとなっていた。

仕事で困ったことがそのまま事業所保健婦研究会や産業看護研究会のテーマになっていて、時代とともに変わっていく課題をみつけて、それに向けて勉強会を積み重ねてきたことが伺えます。

福光　テーマを皆で出しあって積み重ねてきた。みんなで喧々諤々議論を重ねた。若い人を引き込むことも大切で、新人に向けたテーマを荒木さんがだしてきて、フォーラムやシンポジウム形式で若い人の発言の場を設けてきた。

過去の研究会のテーマを見ると、時代の流れがよくわかる。

藤原　世話人会は楽しかったですよ。

今村　テーマをどのように決めて行ったかを振り返ると、現場で必要とする課題が世の中の課題となっていくと感じる。研究会のテーマそのものが産業看護の流れそのものだと感じる。

人とのかかわりの中で、問題を見つけ、それを解決するために、研究会のテーマを決め、それが産業看護の実学になっていた。

福光　世話人みんなの意見をだしていったことで、単なる研修会で終わっていない。研修会のテーマを議論することが、世話人の成長にもなった。それがよかったのではないかと思う。

住徳　今の保健師でもハウツーやタイムリーな話題に飛びつく方もいます。会社の中で認められないと愚痴るだけの方もいます。今の時代は、ハウツーは求めれば、ネットなどですぐに情報を得られるので、今の研究会では、あえてハウツー（実践）を出さず理論中心としています。

今年９月に、新しい産業看護の資格制度、日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度が始まり、それまでと違い資格取得のために学会入会が条件ということもあり、学会への保健師の加入が年に100名ほど増えてきています。学会に入ることや活動することが、昔と今では意味合いが変わってきていると思います。

しかし、先輩方の熱意のある活動を後進に伝える責任があると思っています。

○高度成長期の産業保健分野の看護職の現状とその活動

住徳　休憩中に話題になったのですが、昭和30年代頃の保健婦と看護婦の構成はどれくらいだったのでしょうか。

今村　前述した昭和34年代の九州電力の看護職126名のうち、保健婦が60％で40％が看護婦。助産婦もいたようです。戦後、従軍看護婦が復員して就職していたという背景があったので、かなり高齢の方も多かった。

藤原　研究会には看護婦も多く参加していた。

今村　私は、保健婦という名前を浸透させることに力をいれていたから、教育制度で、「産業看護」という名称を決める時にはもめた記憶がある。関東は看護婦さんが多かったから意見が強かった。九州では保健婦が定着していたので、未だに「産業保健」がいいと思っている。

看護婦の場合は、直接的なケアが多いので、社員から感謝されることも多く保健婦は生活改善の支援の工夫（禁煙・節酒）で煙たがられる。

しかし、精神衛生の取り組みの必要性が

高まったころから、看護婦では手に負えないということで保健婦の採用に切換えていったと思う。

住徳　事業所が診療所を設置しなくなったのも関係があるでしょうか。労働災害など救急対応が少なくなり、産業保健活動の中でメンタルヘルスが主流になったため、看護婦から保健婦に移っていったと考えていいでしょうか。

今村　看護婦を退職に追い詰めたわけではなく、看護婦が退職したら保健師に切り替えていったというのが現状です。九州電力の場合、山間僻地に看護婦を配置していたが、徐々にとりやめていったという背景もあります。

森中　当時は巡回健診に看護職が随行していた。健保病院が検診車をもっており、各支店の保健婦が、担当の山間部の健診に同行し、検尿や血圧測定等を行っていた。

住徳　その当時はとても忙しかったのではないですか。

森中　何もかも自前だったので、とても忙しかった。

福光　ＮＴＴも同じでしたね。

住徳　現代でも自動車の工場などでは、自前で健診をおこなっていますが、自前の健診はどのくらい続いたのですか。

森中　健康診断を福大病院へ移管するまでなので、昭和58年頃くらいまで。

昭和58年頃から日帰り人間ドックが始まるまでだった。

住徳　今の話は九電さんでしたが、ほかの九州の大きな企業も同じだったのでしょうか。

今村　分散型の事業所は、東京の本社から健診にきていたところもあったようです。

森中　工場はいいけど、山間部や僻地に事業所を持っている企業は、出向いていかないといけなかったのはどこも同じでしょう。

福光　大きな企業は九州電力、ＮＴＴ、西部ガス、九州松下、ブリジストンとか、診療所が持っていたようです。

住徳　当時は産業保健活動にも企業それぞれの独自性があったように思いますが、今は個人情報保護のことで制約があるのではないでしょうか。

藤原　九電は、昭和58年に日帰りドックが始まり、二次検査まで企業負担で実施していた。肝炎検査等の追加など、福利厚生的意味で項目をやみくもに増やしている時代だった。

今村　Ｂ型肝炎の治療を推奨した時代もあった。インターフェロンで治療した社員も半数くらいは、ウィルス量がもとにもどった。

住徳　ウィルス性肝炎も医学の進歩により治療方法が様変わりしており、企業における肝炎検査の意味合いが変わっている。高度

〈平成13年九州地方会学会開催時撮影〉

上段左から：山下、本川、日笠、鈴木、福光、内藤、桃野、中村、不明、柴戸
下段左から：遠藤（白石）、藤原、住徳、西、森中

経済成長の時代は、健診項目さえ福利厚生の一部として考えられていたが、時代は、エビデンスに基づいたオーダーメイド健診へと変わってきているという時代移り代りがよくわかった逸話でした。

○産業看護研究会から産業看護部会の設立へ

住徳　最近の時代へ移ります。昭和53年に鈴木美代さんが産業看護研究会の代表世話人になったと記録にあります。看護協会の中にあった事業所保健婦研究会が最終的に活動を終えたのはいつ頃でしょうか。

森中　私が就職後、昭和56年ぐらいには事業所研究会と産業看護研究会が混在していた印象だった。

住徳　資料を見ると昭和56年です。それが最後ですね。このあたりが産業看護の活動が、看護協会から学会に移った転機のようですね。ところで、「看護協会一本化」とはどういう動きだったのでしょうか？

今村　看護はひとつというのは、アメリカから来た考え方。労働者の働く場が広がり、工場労働者以外も対象となっていった。

福光　保健婦、助産婦、看護婦という独立した資格から、一本化というより連携が必要ということだった。お互いの職能を理解し線を引かず、福岡県看護協会の会長も保助看で交代制だった。

　対象者のライフステージにあわせて、それぞれの職能（保助看）が支援するという発想で、地区中心の活動となった。

　カテゴリー別に研究会をやっていたのを地区ごとに再編したイメージ。

住徳　保健婦の法制化の働き掛けは昭和40年後半だったようですね。アメリカに視察団を送ったり、フィンランドで産業看護職の教育カリキュラムを作る動きがあったので、日本でも産業看護の教育制度の委員会を作る動きが出てきたようです。

今村　看護協会でも教育に力を入れていた時代だったと思う。４年制の大学を作ろうと学校法に入れるということ保健婦看護婦を１本にという動きがあった。アメリカへの視察もあり、報告書を基盤に４年制大学で看護を１本にという考え方となり、４年制大学が数多く設立されていった。

福光　河野元産業看護部会長のもとで作った継続教育制度を構築したとき、看護婦でも教育を受ければ、学会認定の産業看護師をとれるということでスタートした。その産業看護師という資格制度については看護協会とも協議したと聞いています。

住徳　日本看護協会が専門看護師制度を設立した際、河野元部会長は学会認定産業看護師をいずれは看護協会の産業分野の専門看護師にできないか相談されたようですが、看護師を含んでいるので職能の違う保健師看護師を同一の資格に入れるのは無理と回答があったと聞いています。

　今は大学でも保健師国家試験の受験枠が決まっていて、選抜試験での保健師資格取得となっており、保健師という資格が以前よりクローズアップされているようです。

福光　看護系大学は４年制になったとき、保健師になる人が少なくなるのではないかという危惧があった。

住徳　大正の頃、保健婦という資格が誕生したときから、看護師と異なり高等教育が必要だという議論があったようですが、まだその議論が続いている気がします。

　現任教育としての看護協会や学会を通して研修を企画開催される立場で、時代により看護基礎教育も変遷があり、異なる基礎教育の方がいるということについて、問題意識などありましたか。

森中　それは常にあった。昔は保健師の卒後教育がなく自助努力しかなかった。産業看護研究会の研修会が限られていたので、研修会を行う機会を確保するよう努力してきた。博愛会病院の那須　繁先生が研修の場を作られたり、産業の場は行政と異なり、現任教育の機会をなんとか作っていかないといけないと産業医も含めみんな頑張ってきた。それが、現在の産業看護の教育システムなどの単位制につながったのではないかと思う。

住徳　福岡県保健衛生部会のように、臨床の研修、時代と共に変わっていく知識を得る場も必要だと思います。

過去の研修会が綿々と続いてきた理由、それを続けてこられたモチベーションはどこにあったのでしょうか。

今村　ハングリー精神。

住徳　ハングリーを感じていた部分はどういったところですか。

今村　どうすればいいのかわからないというところ。ノウハウが何もない。それを打破するために勉強しなければという気持ちと、何をすれば企業に理解してもらえるか、学んだことを業務に結び付けていかねばならないが、その前の段階での飢餓感だった。

住徳　自分の仕事のためのハングリーだけでなく、他の人へつなげるためへのモチベーションはどこから湧いてきたのでしょう。

福光　私は労働衛生機関の保健婦だったので、看護協会の区分では事業所保健婦ではないといわれたことがある。他の人からいろいろなことを聞くことが楽しかった。最初は自分のためだったけど、自分がよかったことを他の人にも伝えたいという気持ちが湧きあがった。忙しい中でいかに自分らしく働くか、そのためには違う場所にいる人と出会うことで、視野が広がる。気分転換もしながらね。

今村　確かに、初めはほかの人がやっていることを聞くこと中心だった。同僚でもだれでも、仕事の内容を聞いていると、とても良い仕事をやっている。そのことに気づけるようになった。

住徳　周囲の方の優れた活動に気づいたら、好事例発表の機会を作ったり、一緒に成長していこうという気持ちになり、さらなるモチベーションにつながる。

福光　人の話を聞き、人のまねから入るが、自分のやり方にかえてやること。

仕事に追われると、なぜだか別の世界の人の話が聴きたくなる。

住徳　一人職場だと自分の仕事の良し悪しや立ち位置を測る「物差し」がないので、時々ほかの人の話を聞いたり学会に行くことによって、自分のやっていることは間違ってないなとか、ほかの人も同じ悩みがあるんだと、感じることで確かめて元気をもらうということは、私たちにもあります。

森中　そういう必要性を若い保健師が持っているだろうということで、1990年にできたのが若い保健師の会（ＯＨＮウェルネス会）。先輩たちの思いを後輩たちに伝えたいという気持ちだった。情報交換の機会を欲していたので、この会をつくった。

藤原　事業所保健婦研究会のお世話をしたのは、自分自身の成長の場と思っていた。それがモチベーションになったのかと思う。

福光　楽しかった。自分にプラスになった。人から誘われないようになったらおしまい。何をさておいても世話人会に行っていた。

今村　同じことを繰り返してきたと思う。同じ悩みを繰り返してきた。オフィシャルの場だけでない交流も大事だった。でも、聞いたこと学んだことを、個人、組織、企業という背景が違うので画一的なことは通じないのでアレンジすることで結果がついてきたように思う。

事業形態の違う人たちとの交流などを通して、少しずつ道がひらけてきた。

○次世代を担う産業保健師へ先輩保健師からのメッセージ

住徳　最後にまとめとして。中央とのつながりを作ってきて下さった歴代の看護部会幹事がいらした。幹事の方々の努力で前産業看護継続教育制度の制定があった。そして平成27年、「公益社団法人」となり、卒後教育1,700名の産業看護師をうけて、産業保健看護専門家ができた。産業看護部会を産業保健看護部会にしようという野望もある。今まではネットワークづくり中心だったが、これからは社会に認められる質が担保された専門職になるために、800名が登録予定である。

学会内でも産業看護部会の認知度が上がっており、実際保健師の学会員が増加しており、3,000人を目指して会員を増やすという目標もある。

旧教育制度から今回の産業保健看護専門家制度に移行するために、最初の移行申請者600名程度の認定作業を今日参加してくれいている九州地方会の産業看護部会の役

員が合宿して作業を行ってくれた。

そういう団結力は、先輩方から受け継いできたもので、他の地方会幹事からも「九州地方会はよい地方会だね」と言われます。今回地方会の産業看護部会の活動についてアンケート調査を行ったが、10名ほどの方が活動に協力していいと申し出てくれています。

これからの九州地方会の産業看護部会を担っていく後輩に対し、最後に一言ずつメッセージをお願いいたします。

森中　30年間、産業看護に携わってきましたが、先輩方から脈々と引き継がれたものを、九州電力の協力により世話人会の例会として積み重ねてこられた。その例会に参加することで自分自身が成長できたと思う。例会がみなの英知の源となったのではないか。今は在宅看護に従事しているが、産業看護は対象者に学歴の高い方も多い。そもそも「看護」の領域が広くさまざまな対象者がいる。どんな対象であっても臆せず対応できるようにしないといけないということもあり勉強を続けてこられた。産業看護の仲間との交流、こころのつながりがあり、今の自分があると思う。

その30年の経験が支えになり、大学院に進学でき、大学教育にかかわった。

結局は産業保健の現場が教師だったと思っています。

藤原　これから地方会で産業看護部会をお世話してくださる方には是非楽しみながら、自分が楽しみながらやっていただきたい。辛いこともあるかもしれませんが、楽しむ気持ちを忘れないでください。

福光　平成13年の九州地方会の学会長をと大久保教授にお話を頂いて産業看護部会でお引受けしたことは、部会全員で生き生き、わくわく、どきどきでした。この時の思いと、私が部会代表を交替してからの皆さんの活躍が、産業保健看護専門家制度の移行へと繋がりました。「九州地方会はよい地方会だね」と言わせたことそのものと思う。うれしいです。

個人面談は相手から教えられる場であり、それは医師も一緒だが、医師と保健師の違いについていつも考えてきました。医師は診療だけではなく、「研究」という視点をいつも持っている。一方、保健師にはそれが不足している、医師への情報提供はきちんとやっているが、目指すものが明確になっていないのではないかと思ってきた。仕事を始めた頃、保健所の女医さんから「学校で習ったことを現場で使っている？」と言われたが、きちんと答えることができなかった。そのとき「１年間で仕事をまとめるということを意識すればいい」という助言を

〈今回座談会参加者と現九州地方会産業看護部会役員〉

上段左から：山下、白石、中尾、日笠、門田
下段左から：柴戸、藤原直子先生、福光ミチ子先生、今村幸子先生、森中恵子先生、住徳

受け、そのおかげで年に１回の学会発表の習慣につながった。「あなた方は科学者ですよ。」先輩の一言を受け止め、咀嚼して頑張ってきた。みなさんも、こころに燃えるものを持っていらっしゃると思いますしその火は消えないと思います。これからも燃やし続けてください。

今村　皆さんに感謝しています。自分には保健師として不確かさがあったが、今のみなさんはきちんと正面を向いて仕事をされている。また、保健師と看護師の違いはなんだろう、わずか１年の基礎教育の違いなのにと考えてきたが、保健師として対象者に真剣に向き合い相手の気持ちを支援していくということで、大きく言えば愛が伝わること、それがその違いではないかと思うようになった。長く保健師をしてきたその関わりの中で自分の中で納得してやったことは伝わっている。生死をかける問題であっても、相手の気持ちを和らげることができるから、保健師を信頼してくれる。基本的には保健師としての仕事が好きだということ、人の良いところを見る保健師という仕事だったからかなんだと思います。これは、仕事でも研究会をお世話する会でも、一緒ではないかと思います。

これからの方は新しい基礎教育制度の中で勉強されてきて、きちんとした姿勢で仕事をされている。その姿勢を保って、これからもちょっとずつでも進んで行っていただきたいと思います。頑張ってください。

住徳　皆様、本当に長い時間ありがとうございました。今新しい産業看護の専門制度が始まり、厚労省で産業医制度の在り方が検討されている中、保健師が注目を浴びています。保健師という仕事を評価することについては、いろんな意見があり、自己評価の低い保健師に出会うこともありますが、今日、先輩方は、自信をもって保健師として活動されてきたことを改めてお話していただき、とてもうれしく思いました。

機会があれば、是非第２弾の懇談会を開催できたらと思います。

本当にありがとうございました。

（文責　住徳松子）

日本産業衛生学会九州地方会　産業看護部会のあゆみ

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
1930	昭和５年				東洋紡績工場に保健看護婦を試験的に設置
1941	16年		三井山野鉱業所が保健婦を設置		
1945	20年		八幡製鐵保健婦養成所設立		
1954	29年				看護婦協会に産業保健婦研究会発足（昭和30年に事業所保健婦委員会に改正）
1955	30年	１月15日	第１回事業所保健婦研究会開催（綱領策定） 主催：伊藤文子（保健婦会福岡県支部長） 後援：石西　進（三井産業医学研究所長） 眞島智茂（八幡製鐵保険館）	会　長：伊藤文子（三井山野鉱業所） 副会長：安部愛子（安川化学工業） 顧　問：労働基準局小町課長、石西、眞島 評議員：大石チヨ（警察）、興梠みつる（三井田川）、大関静江（三井三池）、長井光子（八幡製鐵）他	
		５月15日	事業所保健婦研究会正式発足		
1956	31年	８月８日	昭和31年度第１回事業所保健婦研究会開催（三井山野鉱業所）		
1957	32年	５月26日	第２回事業所保健婦研究会開催 研究発表、事業所における地区組織について		産業看護に関するILO/WHO連合セミナー開催（ロンドン）

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
1957	32年	10月27日	昭和32年度第１回事業所保健婦研究会開催（65名出席） 欧米における労働衛生 テーマ：母子衛生について 医療社会事業概論における保健婦事業について		
1958	33年	１月25日	第２回事業所保健婦研究会開催		
		４月13日	昭和33年度第１回事業所保健婦研究会開催 テーマ：衛生教育のあり方 母子衛生について（その２） 事業所における保健婦の重要性について 欧米視察映写		
1959	34年	３月29日	第２回事業所保健婦研究会開催（27名出席） テーマ：職業とヒューマニズム （九大内藤助教授） 今後の事業所保健婦の考え方		三井三池で保健婦に退職勧告 保健婦会で労働基準法における保健婦の位置づけについて検討会開催（九州へ実態報告の依頼）
		11月15日	昭和34年度第１回事業所保健婦研究会開催（46名出席） テーマ：職場安全と精神管理（フラストレーション） 今後の事業所保健婦の考え方	池田泰子（九州電力）	保健婦会事業所保健婦委員会で労働省、衛生管理者、医師との座談会開催（安衛法に保健婦である衛生管理者を設置することについて）
1960	35年	４月24日	第２回事業所保健婦研究会開催（38名出席） テーマ：事業所保健婦に必要な統計方法とその応用 カウンセリング技術（人間関係における態度）		
		10月９日	昭和35年度第１回事業所保健婦研究会開催 テーマ：続人間関係 事業所保健婦の今後のあり方について		
1961	36年	４月23日	第２回事業所保健婦研究会開催 講演：産業衛生回顧30年（石西進） ：職場の安全と人間関係	委員長：大関静江 委員：脇山道子（九州電力）、田津トシ子、宇野	
		12月10日	昭和36年度第１回事業所保健婦研究会開催 研究発表：私の仕事はこれでよいか いかにしたら企業体に即した保健婦業務が出来るか	委員長：大関静江 委　員：峯セキ、尾田シズカ、桃野美代子	
1962	37年	３月４日	事業所保健婦代表者会開催	池田泰子、伊藤文子、長井光子、藤井房子、興梠光子、村本静子、桃野美代子	
		11月８日	九州地区事業所保健婦集談会開催 県内57名、九州各県15名、合計72名出席		
1963	38年	４月21日	昭和37年度第２回事業所保健婦研究会開催（41名出席） テーマ：企業体における保健婦活動 討議：公衆衛生従事者教育体系の制度化について		
		10月20日	昭和38年度第１回事業所保健婦研究会開催 テーマ：最近の労働衛生について 労働者の高血圧管理について		

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
1964	39年	3月15日	第2回事業所保健婦研究会開催 テーマ：最近の精神衛生の動向 職場における精神衛生管理		看護協会保健婦会、事業所保健婦の問題で労働省と話し合い
		11月20日	昭和39年度第6回事業所保健婦研究会開催（60名出席） テーマ：事業所保健婦活動について		
1965	40年	4月18日	第2回事業所保健婦研究会開催 テーマ：最近の精神衛生の動向 職場における人間関係		看護協会保健婦会事業所委員会、法的身分について労働省に陳情
1966	41年				健康保険組合産業保健婦連絡協議会発足 ICOHで産業看護委員会設立
1968	43年				労働安全衛生大会時「産業の場における女子の保健活動」開催（1974年まで）
1969	44年				第16回労働衛生会議8分科会（産業保健婦活動）運営 公衆衛生看護学会後、事業所保健婦自由集会開催
1970	45年				保健婦業務要覧改訂（事業所保健婦業務について執筆）
1972	47年	3月16日	昭和46年度第2回事業所保健婦研究会開催 テーマ：その後の労働基準法改正の動き 福岡県における産業衛生の問題点		労働安全衛生法における産業保健婦の位置づけに関する要望 安衛法施行に伴い衛生管理者の免許を有する保健婦活用の通達
1976	51年	4月19日	昭和51年度第2回事業保健婦研究会開催 テーマ：企業における精神衛生管理について 企業における健康管理について		
1977	52年	3月8日	昭和52年度第2回事業保健婦研究会開催 テーマ：労働安全衛生法改正点について 最近の職業病について 中年層の健康管理、健康教育と保健指導		
		4月5日			第51回日本産業衛生学会（久留米市）で、初めて産業の場に働く保健婦・看護師の自由集会開催
1978	53年	6月1日			産業看護研究会発足（参加人員63名） 労働安全衛生法に保健婦の設置に関する要望について陳情
		7月8日	産業保健研究会（鈴木氏、藤原氏、荒木氏）、事業所保健婦研究会（今村氏、木村氏、福光氏）6名で第1回合同委員会を開催	日本産業衛生学会九州地方会保健婦看護婦会員数 28名（6月1日）	
		8月29日	第1回日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（22名出席） テーマ：健康情報とそのまとめ方	代表世話人：鈴木美代、副：藤原直子	
		11月29日	昭和53年度第1回事業保健婦研究会開催（54名出席） テーマ：労働衛生の現状と展望 健康づくりの推進について 衛生管理の考え方	委員長：今村幸子	

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
1979	54年	6月28日	第2回日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（90名出席） テーマ：産業医科大学の特性 企業における産業保健婦、看護婦の方向について		
		7月28日	産業看護、事業所保健婦合同委員会開催		
1980	55年	8月	産業看護カリキュラム（試案）に対する意見、要望その他のまとめ発行		
		9月3日	日本産業衛生学会産業看護研究会第5回産業看護研究会全国集会開催（福岡市） テーマ：健康診断の事後措置～産業看護職として考えねばならぬこと～	世話人会：代表　鈴木美代、副代表　藤原直子、今村幸子、福光ミチ子、荒木千寿子、熊野英子、池田泰子（顧問）　会員56名	
		12月	産業看護業務等に関する調査のまとめ発行		
1981	56年	1月24日	昭和55年度第2回事業所保健婦研究会開催（76名出席） テーマ：関係法令改正の概要および中高年齢者対策について 企業における精神衛生問題への対応について		
		6月25日	第5回日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（73名出席） テーマ：問診を考える 討議：産業看護職であるために		日本産業衛生学会教育資料委員会産業看護カリキュラム作成
1982	57年	12月2日	第6回日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（79名出席） テーマ：産業看護職と職場巡視 北欧諸国における産業保健婦の卒後教育と産業保健活動について		産業医科大学医療技術短大に専攻科開設
1983	58年	1月12～15日 8月3～6日			日本産業衛生学会教育資料委員会産業看護カリキュラム作成に基づき、第1回産業看護セミナー開催
		12月3日	第7回産業看護研究会開催（108名出席、学生17名出席） テーマ：企業における健康・体力つくりの必要性とその方法		
1984	59年				「産業看護活動事例集その1」日本産業衛生学会産業看護研修会より発行
1985	60年	3月27日	第13回産業看護研究会全国集会「職場における健康づくり、体力づくり～産業看護職のかかわり方」（北九州市）	世話人会：荒木千寿子、池田泰子、今村幸子、倉本弘子、児玉悦子、佐藤美佐保、都留直美、内藤正子、長江寿恵子、福味憲子、福光ミチ子、藤原直子、本川真弓、桃野美代子、吉武靖子	
		12月7日	昭和60年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（243名出席）第2回健康教育研究会共催 テーマ：健康づくり―心理的アプローチ		
1986	61年		昭和61年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（207名出席） テーマ：保健行動の心理	世話人会：荒木千寿子、池田泰子、今村幸子、岩田スエミ、兼平文美、古賀孝子、児玉悦子、佐藤美佐保、白江治乃、内藤正子、福味憲子、福光ミチ子、藤原直子、本田寿子、本川真弓、桃野美代子、吉武靖子	「産業看護のあゆみ」日本看護協会出版会より発行

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
1987	62年		昭和62年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催（243名出席） テーマ：健康相談の中のメンタルヘルス		
1988	63年		昭和62年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：わたしたちの仕事の分析をまとめ方		
1989	64年 平成元年	９月１日	第22回産業看護研究会全国集会「運動欠乏症とその対策」（福岡市）		保健婦教育課程に産業保健指導31時間規定 「産業医学」に産業看護の定義・役割を発表（産業看護研究会）
1990	２年	４月４日	第23回産業看護研究会全国集会「改正労働安全衛生法と産業看護職、業務の何がどう変わったか」（熊本市）		
			若い保健婦の会開催→ＯＨＮウェルネス会へ		
1991	３年		産業看護研究会から、産業保健婦・看護婦研究会へ名称変更 平成３年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：私の産業保健活動と産業看護職のこれから	世話人会：荒木千寿子、今村幸子、岩田スエミ、佐久間美和、内藤正子、福味憲子、福光ミチ子、森中恵子、吉武靖子、顧問：池田泰子、河野啓子、本川真弓、ＯＨＮウェルネス会：豊田真由子、松原節子、尾崎朋子、深見佳恵子、早川理恵	日本産業衛生学会に産業看護部会発足
1992	４年	12月５日	平成４年度日本産業衛生学会九州地方会産業保健婦・看護婦研究会開催（189名出席） テーマ：健康づくりへの新しい視点 従業員の健康づくりに役立つ研究の進め方		
1993	５年				産業看護職の資格認定制度について協議
1996	８年	11月30日	産業看護研究会世話人会から産業看護部会へ 平成８年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：労働安全衛生法の改正のポイントと看護職の役割 地域保健と産業保健の連携	部会委員：福光ミチ子（代表）、荒木千寿子、岩田スエミ、片山慶子、木下久美子、段上朋子、豊田真由子、内藤正子、西　雅子、橋口美奈、日笠理恵、福味憲子、藤原直子、桃野美代子、森中恵子、山下珠美、池田泰子、今村幸子、加藤登紀子、鈴木美代、本川真弓	産業看護部会部会員数556名
1997	９年	１月23～25日			短縮Ｎコース開催：東京・大阪
		11月29日	平成９年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：産業看護職のための実践的プレゼンテーション	産業看護部会幹事：加藤登紀子、本川真弓	
1998	10年	10月			日本産業衛生学会登録産業看護師 登録開始
1999	11年	12月11日	平成11年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：働く人の心身を癒す気功の理論と実技 産業保健のチームワーク		
2000	12年	11月18日	平成12年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：産業保健の新しい視点		

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
2001	13年	7月6～7日	平成13年度日本産業衛生学会九州地方会学会開催 （はじめて産業看護部会長が学会長を務める）	学会長：福光ミチ子	
		12月15日	平成13年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：職域保健と健康情報の取扱い メンタルヘルスケア　アロマテラピー		
2002	14年	12月14日	平成14年度日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催 テーマ：産業変革期の新たな産業看護職像を求めて 第１回看護部会総会を開催	本部幹事：福光、西田、唐鎌、西 委員：福光ミチ子（会長）、西雅子、日笠理恵、段上朋子、藤原直子、内藤正子、柴戸美奈、住徳松子、遠藤明子、森中恵子、長広千恵、堀川淳子、山下珠美	産業看護師登録数　585名
		8月30～31日 9月20～21日 2月14～15日	九州地方会産業看護講座基礎コース第１回開催 40名受講		
2003	15年	３月８日	平成14年度労働者の生涯健康の支援を考える会開催 テーマ：産業保健に活かす代替医療 体験しようボディートーク		
		６月13日	九州地方会産業看護部会発足 ニュースレター　ふぉねっと発行		
		7月11～12日 8月22～23日 2月13～14日	九州地方会産業看護講座基礎コース第２回開催 26名受講		
		11月22日	日本産業衛生学会九州地方会平成15年度健康管理研究会ならびに産業看護研究会開催 テーマ：労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト 過重労働ガイドラインと産業保健サービスを考える		
2004	16年	１月24日	平成15年度労働者の生涯健康の支援を考える会開催 テーマ：高脂血症者の行動変容について		
		8月7～8日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第１回開催 テーマ：人間工学、情報管理		
		11月			産業看護継続教育システム手帳改訂
		12月11日	日本産業衛生学会九州地方会平成16年度産業看護研究会開催 講演：産業看護の企画立案を広報		
2005	17年	1月			日本産業衛生学会産業看護部会 産業看護の定義改訂
		2月3～5日	九州地方会産業看護講座短縮Nコース第１回開催 26名受講	本部幹事：西田（副部会長）、福光、西、日笠	
		２月25日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第２回開催 コミュニケーション		
			平成16年度労働者の生涯健康の支援を考える会開催 障害者雇用と産業看護職が果たす役割		

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
2005	17年	11月19日	日本産業衛生学会九州地方会平成17年度健康管理研究会ならびに産業看護研究会開催（35名出席） テーマ：健康日本21の未来に産業保健サービスが果たす役割		産業看護師登録数　1,075名
2006	18年	3月11日	平成17年度労働者の生涯健康の支援を考える会開催 テーマ：健康づくりのための運動処方	委員：日笠理恵（会長）、西　雅子、段上朋子、内藤正子、柴戸美奈、住徳松子、白石明子、森中恵子、中之薗美紀子、田中節子、中谷淳子、鹿毛美香、山下珠美、林　睦、福光ミチ子	産業看護師をご存知ですか（パンフレット）発行
		11月25日	日本産業衛生学会九州地方会平成18年度産業看護研究会開催（22名出席） テーマ：職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割	鈴木美代氏 第79回日本産業衛生学会功労賞受賞	
2007	19年	2月24日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第3回開催 テーマ：特定健診・特定保健指導と産業保健のかかわり	本部理事：福光 本部幹事：西、日笠、住徳	
		9月29日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第4回開催 テーマ；働く人の腰痛予防対策。ＶＤＴ作業における産業看護戦略	今村幸子氏 第80回日本産業衛生学会功労賞受賞	
		12月1日	日本産業衛生学会九州地方会平成19年度健康管理研究会ならびに産業看護研究会開催（48名出席） テーマ：産業保健現場における特定保健指導について		
2008	20年	9月14日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第5回開催（27名出席） 講演：保健指導の新しい潮流		
		11月8日	日本産業衛生学会九州地方会平成20年度産業看護研究会開催（40名出席） 講演：企業におけるリスクマネジメント		
2009	21年	5月23日	第82回日本産業衛生学会（福岡市）産業看護フォーラム開催（450名出席） テーマ：保健指導の目指すべき方向性 産業看護特別研修会開催（100名出席） 講演：労働安全衛生マネジメントの今までとこれから	委員：柴戸美奈（会長）、日笠理恵、住徳松子、中尾由美、白石明子、田中節子、中谷淳子、鹿毛美香、山下珠美、田原由夏、林　睦、西田和子、福光ミチ子	産業看護部会部会長交代 河野啓子氏→西田和子氏
		9月12日	日本産業衛生学会九州地方会平21年度産業看護研究会開催 講演：コミュニケーションの考え方と進め方	本部理事：住徳 本部幹事：柴戸、中尾	
2010	22年	8月6～8日			第3回国際産業看護・第2回アジア産業看護ジョイント学術集会開催（横浜）
		9月4日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第7回開催 講演：職場における腰痛予防		
		12月11日	日本産業衛生学会九州地方会平成22年度産業看護研究会開催 講演：コミュニケーションを促進する効果的な色の使い方		

西暦（年）	元号	月日	九州地方会の活動	役員等	全国の産業看護の状況・研究会等
2011	23年	9月10日	日本産業衛生学会九州地方会平成23年度産業看護研究会開催 講演：福岡県における精神科救急の現状 アルコール関連問題対策の最近の動向	委員：柴戸美奈（会長）、日笠理恵、住徳松子、中尾由美、白石明子、田中節子、中谷淳子、鹿毛美香、山下珠美、田原由夏、虫明優子、松田聖子、西田和子、福光ミチ子	産業看護部会部会長交代 西田和子氏→五十嵐千代氏
		11月23～26日	第21回日本産業衛生学会産業医・産業看護協議会（福岡）開催 産業看護部会企画：社会基盤としての産業看護職		
2012	24年	7月13～14日	平成24年度日本産業衛生学会九州地方会学会開催 （平成13年に引き続き産業看護部会長が学会長を務める）	学会長：柴戸美奈	
2013	25年	1月19日	日本産業衛生学会九州地方会平成23年度産業看護研究会開催 テーマ：産業看護職として知って多くべき労務管理の基本	本部理事：住徳 本部幹事：柴戸、中尾 福光ミチ子氏 第86回日本産業衛生学会功労賞受賞	河野啓子氏 第86回日本産業衛生学会名誉会員
		10月26日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第8回開催（23名出席） テーマ：産業看護に必要な労働衛生工学の知識他		産業看護師登録数　1,745名
2014	26年	1月18日	日本産業衛生学会九州地方会平成25年度産業看護研究会開催（37名出席） テーマ：アルコール問題の最近の動向と職域への展開	本部理事：住徳 本部幹事：柴戸、中尾	
		7月26日	九州地方会産業看護講座実力アップコース第9回開催（30名出席） テーマ：ヘルスコーチングを使った効果的な集団指導技術		
2015	27年	2月14日	日本産業衛生学会九州地方会平成27年度産業看護研究会開催（32名出席） テーマ：ストレスチェックを好機とするために		
		9月1日			日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度登録開始